

高齢化団地での生活基盤の支援と、地域コミュニティの活性化を図る拠点  
「つどいの場」と「事業」の機能を併せ持つ『くらしのプラットホーム』を開始  
3月6日(金)、原市団地(埼玉県上尾市)で今後の取り組みの説明を実施

コープみらい(本部:埼玉県さいたま市、理事長:田井 修司、事業エリア:千葉県・埼玉県・東京都)は、埼玉県上尾市の原市団地において、生活基盤の支援と地域コミュニティの活性化を目的とした拠点『くらしのプラットホーム』を開始し、社会と企業が一緒になって社会問題を解決するCSV活動に挑戦します。

この拠点を中心に、高齢化や住民の減少が進み商店が撤退している団地での、新たな枠組みの事業を成立させることと、地域住民や多くの団体の皆様とともにコミュニティの活性化への貢献の両立に挑戦します。

原市団地は、高度経済成長とともに建設された大規模団地の一つで、大きなコミュニティを形成してきましたが、年代とともに世帯数の減少および住民の高齢化が進み、団地内の商店街が撤退して活力が低下していきました。こうした中、コープみらいでは2011年、宅配サービス「コープデリ」の商品受け取りと地域コミュニティの拠点「原市団地ステーション」を、団地内の閉店した商店を活用して開設。住民の生活基盤を支えてきました。

今回、その経験を生かし、団地自治会や行政、大学・専門学校、社会福祉協議会、UR都市機構、地域包括支援センター、コープみらいおよび地域組合員が協力・連携してこれまでの「原市団地ステーション」のサービスを拡充させ、地域住民がより住みやすい街となることを目指す拠点『くらしのプラットホーム』の取り組みを開始します。

『くらしのプラットホーム』では“サロン機能”と“事業の場”を柱に、地域全体の活性化を図ります。“サロン機能”では、お茶飲みのスペースや小さいお子さんを持つ住民が気軽に立ち寄り、交流できる場の提供、商品の試食・学習会などのイベントを地域のコープみらい組合員が主体となって開催いたします。“事業の場”では、「コープデリ」の宅配機能を拡充し、団地における新たな枠組みでの配達サービスに挑戦し、事業として成立させることで、将来にわたるくらしへの貢献を可能にすることを目指します。

なお、3月6日(金)開催の「原市団地ステーション報告会」の中で、これまでの活動と今後の取り組みについて、ご説明する予定となっております。報告会終了後、団地住民を対象にした、自治会・地域組合員による「周年祭」を11時30分より開催し、試食会や即売会、抽選会などを行います。

「原市団地ステーション報告会」の概要については、次項をご覧ください。



原市団地外観



「原市団地ステーション」外観



住民同士の交流

## －原市団地ステーション報告会 概要－

日 時：3月6日（金） 10時30分～11時15分

会 場：原市団地内「原市団地ステーション」（埼玉県上尾市原市 3336 原市団地 4-19-103）

主 催：生活協同組合コープみらい

出席団体：原市団地自治会、上尾市高齢介護課、社会福祉協議会原市団地支部、  
原市北地区包括支援センター、上尾市医師会上尾看護専門学校、芝浦工業大学  
UR 都市機構埼玉地域支社、生活協同組合コープみらい

スケジュール：10時30分～10時45分 挨拶（コープみらい佐藤利昭副理事長、コープみらい組合員）  
10時45分～10時55分 取り組み報告  
10時55分～11時10分 来賓挨拶および来賓紹介  
11時10分～11時15分 閉会式

交通手段：埼玉都市交通伊奈線（ニューシャトル）原市駅から徒歩10分

JR宇都宮線東大宮駅西口下車 東武バス「東大12：原市団地循環」原市診療所降車

※当会場へお越しの際は、公共の交通機関をご利用くださいますようお願いいたします

### 《生活協同組合コープみらい 概要》

ちばコープ、さいたまコープ、コープとうきょうは組織合同（合併）し、「コープみらい」になりました

【住 所】埼玉県さいたま市南区根岸 1-5-5

【理 事 長】田井 修司（たい しゅうじ）

【組 合 員 数】314万人（2014年1月20日現在）

【総 事 業 高】3,629億円（2013年度）

【事業エリア】千葉県、埼玉県、東京都

【ホームページ】<http://mirai.coopnet.or.jp/>